

ともかわさきパラアートニュース

第13号 令和3年5月発行

<まちかどパラアート展>

2020年「なかはら障害福祉施設ひらま」の開設記念に開催を予定していたパラアート展が新型コロナウイルスの影響で中止になったことから、今年度に「まちかどパラアート展」という新たな形で展示会を企画しました。多くの皆様のご賛同とご支援をいただかないと開催できないものと考えております。事業所から街の中へ、まちかどパラアート展はアートで人をつなげます。

川崎市においても障害者を対象としたパラアートの展示は、パラアート推進事業として公的な支援を受けながら、例えば「COLORSかわさき展」が公益財団法人川崎市文化財団によりミュージアム川崎企画展示室で、「川崎市障害者作品展」が川崎市障害者社会参加センターによりアートガーデンかわさき展示室で開催され、障害者の作品が展示公開されています。作品展への出品希望も多く川崎市が進める「かわさきパラムーブメント」の活動が力になっているようです。しかしながら、作品展に訪れる多くの方が関係者であること。作品展は管理上からか屋内の展示スペースであること。作品展が川崎駅周辺での開催が多く拠点的事業であること。など障害のある人ない人も共に文化芸術活動に親しむ環境づくりという面からはまだ課題があるのではないかと感じます。そこで今までの取り組みに加え、新たな視点からパラアート活動の展開を提示したいと思いました。

川崎市のいろいろな場所、街の中に、生活の中へパラアート展示を届けることで、まちなかの多くの方々に、いままで障害福祉を知らない人に、「障害のある人もない人も共に文化芸術活動に親しむ環境」を生み出します。

第1回目の「まちかどパラアート展」は今年の秋、鹿島田駅周辺で開催したいと関係方面と協議中です。ご期待ください。開催賛助金も受け付けています。

<パラアート推進公募型事業委託に応募してみた>

川崎市と公益財団法人川崎市文化財団が実施しているパラアート支援事業で文化庁文化芸術創造拠点形成事業の採択事業、障害の有無にかかわらず文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに寄与する事業の企画と実施団体を募集する「令和3年度パラアート推進公募型事業」に、相談交流ひらまが事務局で企画開催する『パラアート絵画教室』事業に応募してみました。採択されると委託事業として事業費がいただけます、令和3年度に継続してパラアート絵画の教室を行えます。6月3日にプレゼンテーション審査がありますが結果はどうか。

<ギャラリーひらま開催中>



いままでも「なかはら障害福祉施設ひらま」の会議室、入口ロビーには、ともかわさきの事業所利用者やはなうた図工室のパラアート絵画を展示してきました。4月からは「日中一時事業所ひらま」利用者の皆さんの絵画やマスクアートなどの作品を展示しています。

これはもう「ギャラリーひらま事業」にすることにします。

<アトリエひらま with F L A T開催>

「パラアート絵画活動 in ひらま」に障がいのあるなしに関わらずアート活動で地域と交流を行う令和3年度最初のインクルーシブ絵画教室が5月8日（土）に開催されました。今回は新型コロナウイルスの蔓延防止期間中ということで十分に注意しながら、川崎市文化財団のご後援をいただき、Studio F L A T大平理事長を講師に迎えて、なかはら障害福祉施設ひらまの多目的室を会場に15名の応募参加者の方々にパラアート絵画を楽しんでいただきました。今回は小さなアーティストがたくさん参加してくれました。



大平講師がゆっくりすすめます



パラアートは楽しく



こんな絵具で描いています

<アトリエひらま with はなうた図工室の開催決定>

「パラアート絵画活動inひらま」に新しい取り組み。今回は超福祉の学校プロジェクトから生まれた生涯学習プロジェクト「はなうた図工室」と一緒に『色の道』というパラアート活動を行う予定です。6月5日土曜日開催いたします。参加募集中

【令和2年度ともかわさきパラアート振興基金収支決算報告】

<収入>236,239円（内訳：絵画代金30,500円、パラアート展開催準備金202,606円、寄附金3,000円、差金133円）

<支出>12,863円（内訳：フレームなど画材類11,863円、作家謝礼金1,000円）

<収支>223,376円。全額令和3年度に繰り越しました。